

タイトル 重複作業改善・リモート会議の取組

リモート
アクセス

申請事業者：株式会社志多組（宮崎市）
業 種：建設業

コンサル事業者：株式会社宮崎県ソフトウェアセンター（宮崎市）
業 種：情報サービス・情報通信業



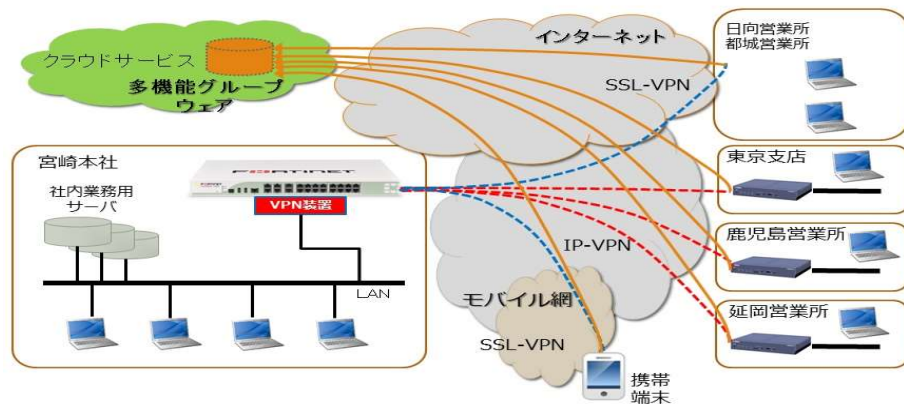
**ポイント クラウド型グループウェア活用・定例会議のリモート化で、
テレワークにも対応可能な環境整備！**

取組の概要

- ・導入部門：主に管理部門
- ・導入業務：資料作成（全社で約10名）。定例会議（5拠点が集合）
- ・目 的：アプリケーションに依らないクラウド上のインターフェースからの入力により書式が統一され業務効率を図るとともに、テレワークにも対応可能な環境整備構築。
リモート会議移行による新型コロナ感染リスクの低減。
- ・ツール：サイボウズ社「Kintone」／リモート会議「ZOOM」
- ・手 法：資料のクラウド型入力、定例会議のリモート化。
- ・規 模：資料作成 100件／月、10名 定例会議 10回／月
- ・導入費用：1,179千円（ツール等 899千円、コンサル 280千円）

リモートアクセスを活用した取組

▶ テレワークを志向した多機能グループウェアの導入



取組の背景

- ・資料作成は自分のデスクで作成しており類似資料が点在していた。
- ・コロナ禍における出社抑制策としてテレワークが可能な環境を整えたい。
- ・新型コロナウイルスの影響下、都市間の移動を抑制したい。



- ・入力インターフェース統一によりテレワークの環境整備と業務効率化を図る。
- ・コロナ禍での出社抑制が余儀なく実施された場合の効率低下を防ぐ。
- ・定例会議のリモート化により都市間移動を抑制し、新型コロナウイルス感染リスクを下げる事で業務に安心して取り組めるようにする。

取組の成果

- ・クラウド型インターフェースによりテレワークが実現可能となり、約10名の出社を要していたのが半数の5名出社に抑制でき、且つ、業務の質を維持できた。
- ・副産物として資料作成の様式統一とクラウド型入力により、処理時間に余裕が生まれ、他の業務へ余力を回せるようになった。
- ・定例会議をリモートに移行した結果、移動に費やす時間が削減され業務効率UPに繋がった。（月10回のうち半数の5回の移動を削減） それにより、会議のために移動する交通費も半減できた。